



システム管理コマンド

- [ap-type](#) (1 ページ)
- [archive](#) (2 ページ)
- [copy](#) (2 ページ)
- [delete](#) (3 ページ)
- [disable](#) (4 ページ)
- [enable](#) (4 ページ)
- [exec-timeout](#) (5 ページ)
- [logging](#) (5 ページ)
- [more](#) (6 ページ)
- [reload](#) (6 ページ)
- [terminal](#) (7 ページ)

ap-type

AP に AP タイプを設定するには、**ap-type** コマンドを使用します。

```
ap-type {capwap | mobility-express word | workgroup-bridge}
```

構文の説明

capwap	AP を CAPWAP AP タイプとして有効にします。
mobility-express	AP を Mobility Express AP タイプとして有効にします。
<i>word</i>	TFTP 転送コマンドの詳細を次の形式で入力します。 tftp://<tftp-server-ip-address>/<filename with path from root>
workgroup-bridge	ワークグループブリッジ (WGB) AP タイプを有効にします。

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

8.8.120.0 **workgroup-bridge** パラメータを追加することで、このコマンドが拡張されました。

例

次に、AP タイプを CAPWAP に設定する例を示します。

```
cisco-ap# ap-type capwap
```

archive

AP イメージをダウンロードするには、**archive** コマンドを使用します。

archive download-sw {/no-reload | /reload | capwap word}

構文の説明

download-sw ソフトウェア ダウンロード コマンド

/no-reload イメージのロード後にリロードしない

/reload イメージのロード後にリロードする

capwap イメージを Cisco WLC からダウンロードする

word **ap image type ap3g3/ap1g4** フォーマットでイメージの詳細を入力します。

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

copy

ファイルをコピーするには、**copy** コマンドを使用します。

copy {cores filename [scp: scp-url | tftp: tftp-url] | flash filename [scp: scp-url | tftp: tftp-url] | support-bundle [scp: scp-url | tftp: tftp-url] | syslogs [filename {scp: scp-url | tftp: tftp-url}] | scp: scp-url | tftp: tftp-url}

構文の説明

cores コア ファイルにアクションを適用する

<i>filename</i>	ファイルの名前
scp:	SCP プロトコルを使用する
<i>scp-url</i>	SCP URL は、次の形式で入力する： username@A.B.C.D:[dir]/filename
tftp:	TFTP プロトコルを使用する
<i>tftp-url</i>	TFTP URL は、次の形式で入力する： A.B.C.D[/dir]/filename
flash	フラッシュ ファイルにアクションを適用する
support-bundle	サポート バンドルをサーバにコピーする
syslogs	syslog ファイルにアクションを適用する

コマンドモード	Privileged EXEC (#)
コマンド履歴	リリース 変更内容 8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

delete

ファイルを削除するには、**delete** コマンドを使用します。

delete {**/force** | **/recursive** | **/rf**} **cores** *filename*

構文の説明	/force 強制削除
	/recursive 再帰的削除
	/rf 再帰的な強制削除
	cores コア ファイルにアクションを適用する
	<i>filename</i> 削除するファイル名

コマンドモード	Privileged EXEC (#)
---------	---------------------

コマンド履歴	リリー 変更内容 ス
	8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、ファイルを削除する例を示します。

```
cisco-ap# delete /rf cores file-name
```

disable

特権コマンドをオフにするには、**disable** コマンドを使用します。

disable

コマンドモード	Privileged EXEC (#)
コマンド履歴	リリー 変更内容 ス
	8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、特権コマンドをオフにする例を示します。

```
cisco-ap# disable
```

enable

特権コマンドをオンにするには、**enable** コマンドを使用します。

enable

コマンドモード	User EXEC (>)
コマンド履歴	リリー 変更内容 ス
	8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、特権コマンドをオンにする例を示します。

```
cisco-ap> enable
```

exec-timeout

exec-timeout を設定するには、**exec-timeout** コマンドを使用します。

exec-timeout *timeout-value*

構文の説明

timeout-value タイムアウト値。有効な値は0～2147483647

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、exec-timeout を 20 秒に設定する例を示します。

```
cisco-ap# exec-timeout 20
```

logging

コマンドのログを作成するには、**logging** コマンドを使用します。

logging {**console** [**disable**] | **host** {**clear** | **disable** | **enable**}}

構文の説明

console コンソール ロギング

host syslog サーバを設定する

disable syslog ホストのロギングを無効にする

enable syslog サーバを有効にする

clear syslog サーバ IP をクリアする

コマンドモード	Privileged EXEC (#)
コマンド履歴	リリー 変更内容 ス 8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、コンソール ロギングを有効にする例を示します。

```
cisco-ap# logging console
```

more

ファイルを表示するには、**more** コマンドを使用します。

more {**flash** | **syslog**} *file-name*

構文の説明	flash フラッシュ ファイルにアクションを適用する
	syslog syslog ファイルにアクションを適用する
	<i>name</i> ファイル名

コマンドモード	Privileged EXEC (#)
コマンド履歴	リリー 変更内容 ス 8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、**test-log** という名前の **syslog** ファイルを表示する例を示します。

```
cisco-ap# more syslog test-log
```

reload

アクセスポイントを停止するには、または再起動を実行するには、**reload** コマンドを使用します。

reload [{**at** *hours minutes day-of-month year* | **cancel** | **in** 分 | **reason** *reason-string*}]

構文の説明	at	<p>特定の日時に AP をリロードする</p> <p>このキーワードは、時間、分、日付、月、年をパラメータとして取る。有効な値は次のとおり：</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>hour</i> : 0 ~ 23 • <i>minutes</i> : 0 ~ 59 • <i>day-of-the-month</i> : 1 ~ 31 • <i>month</i> : 1 ~ 12 • <i>year</i> : 2015 ~ 2099
	cancel	中断しているリロードをキャンセルする
	in	一定の間隔後にリロードする。この時間は分で指定する。有効な値は 1 ~ 1440分
	reason	リロードの理由を指定する文字列

コマンドモード Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリース 変更内容

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、10 分後に AP をリロードする例を示します。

```
cisco-ap# reload in 10
```

terminal

端末パラメータを設定するには、**terminal** コマンドを使用します。

terminal {**length** | **monitor** [**disable**] | **type** *word* | **width** *no-of-characters*}

構文の説明	length	画面上の行数を指定する。有効な値は 0 ~ 512。出力を一時停止しない場合は 0 を入力する
	monitor	デバッグの出力先を現在のターミナル回線に指定する。モニタリングを有効にするには Enter キーを押す。モニタリングを無効にするには、キーワード disable を入力する。
	type	ターミナルのタイプを指定する

width ディスプレイ ターミナルの幅を指定する。有効な値は 0 ~ 132

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、ターミナルの行数を 50 に設定する例を示します。

```
cisco-ap# terminal length 50
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。